

灯台
2007年6月10日
第三文明社



写真/西田光良

脳の活性化を目指す
プログラム

授業中じっとしてられない、集団行動が苦手、注意力に欠ける——これらはADHD（注意欠陥・多動性障害）児に目立つ特徴です。

ADHDやAS（アスペルガー症候群）は脳の機能障害が原因とされ、特に、集中力や、抑制力、思いやりなどを担担する「前頭葉」の機能の低下が問題ではないかと指摘されています。しかし、ADHD

については、生まれ持った脳の機能障害だけでなく、人間関係、生活環境など、後天的な要素も影響しているため、症状を改善することも可能だと言われています。

そうは言っても、実際にどのような取り組みならいいのか分からないという保護者も多いのではないのでしょうか。

そのような保護者のために、子どもへの接し方や、生活環境向上の推進に積極的に取り組んでいるのが、

岡山県・倉敷市立短期大学の平山諭教授が主宰する環境対話キャンプです。

二泊三日で行なわれるこのキャンプは、ほめる、見つめるなど二十一の子どものスキル（接し方）を用いたプログラムや対話を通して、ADHD児、AS児などの軽度発達障害児の脳を活性化させ、症状を改善させることを目的としています。

神奈川県・三浦ふれあいの村で開催された今年二月のキャンプには、約二十五組の家族が参加。

その家族をサポートするのが、臨床トレーナーと呼ばれる研修を受けた生ボランティアと、そのトレーナーを管理するスーパーバイザーです。一人の子どものトレーナーが一人ないし二人つき、いっしょに行動します。

参加者の年齢も、幼稚園児から小学校高学年までさまざま。三日間いっしょに過ごすお友だちと顔を合わせた後は、いよいよプログラムに移ります。

灯台

2007年6月10日
第三文明社



オープニングセレモニーでキャンプスタート！



身の回りにあるものを使って、上手に立つ子供



お友だちの前で自分の名前を元気に発表



触れ合ってコミュニケーションをとるのむねのスキルのひとつ

子どもを肯定することが 自信につながる。

キャンプでは、子ども会議やレクリエーションなど、ADHD児が好む「変化」を感じられるようなさまざまな企画が用意されています。

その中心となるのが、「サイコモーター」。サイコモーターとは、楽しいとき、夢中になったとき、運動するときなどに分泌され、前頭葉を活性化させる効果のある「ドーパ

ミン」の分泌を、音楽と体の動きを使って促進させるプログラムです。

「うれしい、くからく、やってきた！」体育館に音楽が響き渡ります。はじめはあちこちで走り回っていた子どもたちも興味津々。次第にお姉さん、お兄さんたちといっしょに、見様見真似で元気に踊り始めました。わが子を見つめるお母さんや、いっしょに踊っているお父さんもいます。子どもたちも楽しそう

平山教授は「大切なのは子どもを肯定すること。親や教師が変われば子どもも変わります」と言います。

お父さん、お母さんの生き生きしている姿がそのまま、子どもたちの笑顔となって映し出されているように見えます。

サイコモーター中もほめることは忘れません。「よくできたね」と声をかけながら、優しく見つめたり、体に触れたり、子どもたちが安心してきる環境を作り出しています。

キャンプでは、親会議や子育て相談も行なわれ、保護者から「同じ悩みを持った方たちと話す場があったらうれしい」「子どもが楽しそうに遊ぶ姿を見られて良かった」との声もあがります。キャンプを通して爪かみなどの症状が軽減されたとの事例も報告されているそうです。

周囲の大人が子どもを認め、愛情を持って支えていくことが、子どもを育む最適な環境を整える第一歩なのだと思慮させられました。